

井川町 辻のまち歩き

「阿波煙草の道」を辿る

幕末から明治時代にかけて、阿波刻み煙草と水運で栄えた町・井川町辻。周辺の山間地で作られた葉たばこは辻に運ばれ、辻で阿波刻み煙草として製品化され、吉野川を下って、徳島や大阪に運ばれていきました。当時の面影が残る町並みを歩いてみませんか？



辻の煙草年表

辻の煙草産業は、1904年には、工場数80前後、工員1,500人が働いていたと記録されています。大手の年商は現在の約110億円、純益は同約25億円にのぼる一大産業となっていました。

1603年	江戸時代
1680年頃	祖谷地域で葉たばこが栽培されるようになる。
1716年～1736年	小規模な手刻み屋が出現。
1776年～	内田久米蔵がカンナ刻みの剪台を考案するなど道具が発達。以後、明治30年代まで、当地のたばこ産業が繁栄。
1868年(明治元)	明治時代(1868年から1912年(明治45))
1875年(明治8)	辻小学校の前身である東井ノ川小学校が設立される。
1898年(明治31)	葉煙草専売法を実施。葉たばこの専売を開始。
1904年(明治37)	煙草専売法を実施。葉たばこのみならず、製造・販売など煙草産業の全てが官営になる。次第に当地の煙草産業は終焉を迎える。
1912年(大正元)	大正時代(1912年から1926年(大正15))
1914年(大正3)	阿波池田駅まで鉄道が開通(徳島～阿波池田全通)
1915年(大正4)	今宮神社の社殿が落成、翌年1月に上棟式

煙草が運ばれた道

神社の裏にある小道は、葉たばこを背負ったり、荷車(猫車)に乗せたりして、山間地の人たちが通ってきた道です。祖谷から辻まで約12キロを一日がかりで運んだそうです。

辻の町並み

曲がりくねった道、建物にはうだつ、漆喰、虫籠窓などが随所に見られ、昔ながらの風情が感じられます。



教育基金石碑(辻小学校)
刻み煙草の繁栄は、教育の町としての基礎をつくりました。



旧島尾邸
通りから奥に見える建物は、見た目は3階建てですが、内部では実は4階建てになっている珍しい造り。



宝来橋(蓬萊橋)
宝来橋は道標を兼ねていて、池田町へ七二五軒(715軒)と「しつしつ」の鐘が鳴ります。



旧中車旅館(仁尾邸)
木造2階建て。1921年(大正10年)頃に建てられたといわれており、明治～大正時代に商人宿として栄えました。



御菓子司朝日屋
「鮎やき」は、吉野川のアユをかたどったこしあん入りのまんじゅう。地元定番のおやつ。



仁尾小香記念碑 光明真言の碑
仁尾小香は、辻出身の南画家です。家の襖絵を描くなど、辻でも画家として生計を立てていました。



今宮神社
毎年正月10日に戎福投げが開かれ昔は牛1頭がもらえたらしい。



仁尾邸
もともとは黒漆喰で、うだつの裏に持ち送りがついている豪壮なお宅。



美しい石垣の道
狭い土地を有効に使うために築かれた石垣は、辻の町を代表する景観。



刻み煙草製造所跡(山基)
かつて、小規模な工場が立ち並んでいた面影が残る。たばこの葉を刻む音が聞こえてきそう。



秋山邸倉庫
高さが違う窓で外気を取り入れて換気に工夫をしています。



四国電力旧社宅
石垣の上に木造の社宅。レンガなども使われていて、当時としてはモダンな建物でした。



芳水酒造
清流吉野川の伏流水を仕込みに使った芳香味なお酒です。



刻み煙草製造所跡(山基)
かつて、小規模な工場が立ち並んでいた面影が残る。たばこの葉を刻む音が聞こえてきそう。



今宮神社
毎年正月10日に戎福投げが開かれ昔は牛1頭がもらえたらしい。



美しい石垣の道
狭い土地を有効に使うために築かれた石垣は、辻の町を代表する景観。



仁尾邸
もともとは黒漆喰で、うだつの裏に持ち送りがついている豪壮なお宅。



宝来橋(蓬萊橋)
宝来橋は道標を兼ねていて、池田町へ七二五軒(715軒)と「しつしつ」の鐘が鳴ります。

井川町辻のガイドツアー 阿波煙草の道を辿る

- 実施日/ 通年
- 参加料金/ 1名様 500円(ガイド料)
- 申込先/ (一社)三好市観光協会
☎0883-76-0877 ※3日前までに予約
- 集合場所/ 三好市井川支所(三好市井川町辻73)
車で…井川支所の駐車場をご利用になれます。
JRで…辻駅から約650m(徒歩約10分)